

駒工生2人も アイデア発表

諏訪で県高校生プレゼン大会

第3回県高校生プレゼンテーション大会（高校生長野県地方創生会議主催）は4日、諏訪市文化センターで開いた。諏訪や上伊那などから10の個人・チームが出場し、地域の活性化に向けたアイデアを発表した。

1チーム8分ほどの持ち時間で高校生らの居場所になるコミュニティスペースの必要性や人口減少対策などを訴えた。諏訪二葉高3年の山田



県高校生プレゼンテーション大会で地域活性化のアイデアを発表する駒ヶ根工業高の生徒たち

皇平さんが取り上げたテーマは防災。「減災」につながるためには知識を身に付けることや周囲の人と情報共有することが大事だと強調し、仲間と共に防災に関するボランティア団体を立ち上げたことを紹介した。

歌が好きという諏訪清陵高3年の河西万有さんは諏訪地方の童歌を披露しながら、音楽はどんな世代にも癒やしや元気を与えると指摘。「いろいろなジャンルの音楽を体験できるイベントを開きたい。子どもが歌う機会を増やして地域を元気にしたい」と話した。

駒ヶ根工業高3年でコマレインジャー同好会の川上大空さ

んと小出蓮さんは、小中学生らにスマートフォンの正しい利用を指導する「高校生スマホキャラバン」の活動を発表。ヒーローショーや講演会で啓発しているとし、「子どもへの受けがいい。上伊那を中心に全国に活動を広げたい」と意欲を語った。

審査の結果、諏訪清陵高の河西さんが最優秀賞、飯田OIDE長姫高のチームが優秀賞に選ばれた。

約50人が来場。主催団体の代表で諏訪清陵高3年の今井裕一さんは「地域の欠点を魅力に変えたい。そのためには地元をよく調べ、多面的にみるのが第一歩。10年後に住みたいまちにするために私たち自身が動かないといけない」と呼び掛けた。

（小尾口有二）